

情報科学部

I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022年度大学評価結果総評】(参考)

情報科学部では、2015年度以来のカリキュラム改革を行い、2022年度に新カリキュラムに移行した。学び直し制度や前提科目、リクエスト集中講義など、従来実施されている独創的な取り組みに加え、新カリキュラムでは、プログラミング入門科目のクォータ化や英語再履修クラスの導入など、旧カリキュラムで見られた課題の解決を目指す新たな試みがなされている点は高く評価できる。これらの試みの効果については、継続的な把握・評価を通して多面的な検証が進められることを期待したい。学生支援に関しては、全学生を対象としたオンライン面談の実施や GBC の積極的な活用など、きめ細かな対応がなされている。

COVID-19 への対応についても、ハイフレックス型授業への転換、オンラインガイダンスやオンライン質問会の実施、オンライン講義ポータル開設など、学部の強みを生かした独自の優れた取り組みをいち早く進めている。2022年度は授業形態が対面主体になることを踏まえ、授業参加者数のシミュレーションを通して教室割付けや複数教室開講授業の検討を行ったことも評価できる。これらの取り組みに関する情報が全学的に共有され、他学部においても活用されることを期待する。

一方で中期目標に関しては、1項目を除き 2018-2021年度の中期目標と同一であるため、今後の4年間では中期目標を達成できるよう適切な計画の策定と遂行が望まれる。

【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

入試環境の変化、MDAP などの文部科学省からの教育指導に対する方針の打ち出し、アフターコロナの教育方法の在り方などを検討すべく、中期目標に修正を加えました。この修正により、情報科学技術を広めるための広報、オンライン・オンデマンド授業の在り方についての検討、入試経路の再検討にあたる年度目標と指標を加えました。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

本学部では、入学後4年以上在学し、卒業に必要な所定の単位数を修得した者に、学士(理学)の学位を授与する。

卒業にあっては、以下の点に到達していることを目標とする。

1. 現実世界の現象や人々の行動に対しての抽象化やそのモデルを理解する能力を修得している
2. 情報科学の概念や基礎体系を修得している
3. 情報科学に関する幅広い視野を身につけ、国際的なコミュニケーションができる
4. コンピューティングかメディア情報についての知識とスキルを修得している

1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。

はい

1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。

はい

【根拠資料】

法政大学の学位授与方針の各学部ホームページ

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/gakubu/

1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。

本学部の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

■カリキュラムの構造

情報科学の急速な進歩に適応するため、学問体系として変化の少ない基盤部分と技術の進歩に応じて変化する最先端部分とを分けて編成する。基盤部分は、情報科学分野の国際・国内学会で策定されたカリキュラムに準拠した構成・内容とする。最先端部分は、各教員の研究内容と位置づけることで、プロジェクト形式の教育、卒業研究の指導を行う。

■初年次教育の構成

初年次教育は、情報科学の枠組みと基本概念を把握するための専門基礎科目とともに、専門分野の理解に必要・有用な科学基礎・外国語・教養を学ぶための科目によって構成する。

■科学基礎教育の構成

科学基礎教育は、情報科学分野の学習の背景となる数学・物理の基礎的科目によって構成する。

■外国語教育の構成

外国語教育は、情報科学分野の主要言語である英語に特化し、理解力・表現力を身につけるための科目によって構成する。

■教養教育の構成

教養教育は、情報科学分野の知見を現代社会で活用してゆくために有用な知識・能力を身につけるための科目によって構成する。

■専門教育の構成

専門教育は、情報科学分野を理解するために必要となる理論等の基礎科目、情報科学の専門的知識・スキルを身につけるためのプログラミング、ソフトウェア、ハードウェア、メディア処理、応用技術に関する科目、問題を洗い出し解決する力をつけるための情報科学プロジェクトと卒業研究によって構成する。

1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。

はい

1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。

はい

【根拠資料】

法政大学の教育課程の編成・実施ポリシーの各学部ホームページ

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu/

1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。

はい

1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基

はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

| | |
|---|----|
| づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。 | |
| 1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。 | はい |
| 1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。 | はい |
| 1.4④学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。 | はい |
| 1.4⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。 | はい |
| 1.4⑥シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。 | はい |
| 【根拠資料】 | |
| 履修ガイド、学期開始時に行うガイダンス資料（教授会で共有）、シラバスの第三者確認（教授会資料） | |

1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

| | |
|--|----|
| 1.5①「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。 | はい |
| 1.5②「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき、卒業の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。 | はい |
| 1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。 | はい |
| 【根拠資料】 | |
| 履修ガイド（印刷物、ホームページ）、ガイダンス資料 | |

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

| | |
|--|----|
| 1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。 | |
| <p>法政大学情報科学部では本学の「大学の学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」</p> <p>に基づき、本学部の教育目標への達成度を高めるために教学アセスメントを実施する。</p> <p>1. 情報科学部の教学アセスメントは、学部執行部において実施する。</p> <p>2. 入学時の全学生に対するプレースメントテストの結果で入学時学力を把握する。</p> <p>3. 専門分野の基礎科目を中心に実施する基礎力確認テストにより、情報科学分野の概念や基礎体系の定着度を把握する。</p> <p>4. 情報科学卒業論文・情報科学特講・情報科学プロジェクトの取り組みや成果を通じて、実際の問題の抽象化やモデルを理解する力を測る。また、それらの発表を通じてコミュニケーション能力を把握する。</p> <p>5. 授業評価アンケートをもとに講義実施方針に関わる学修状況を把握する。</p> | |
| 1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。 | はい |
| 1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を把握していますか。 | はい |
| 1.6④学習成果を可視化していますか。 | はい |
| 【根拠資料】 | |
| 法政大学の学修成果の把握に関する方針の各学部ホームページ | |

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/seika_hoshin/gakubu/
 数学プレースメントテストの結果共有と分析資料(附属校推薦実施委員会資料)
 情報科学特講発表会(情報科学部第 441 回教授会議事録)、情報科学卒業論文発表会(情報科学部第 456 回教授会議事録)の実施

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

| | |
|--|----|
| 1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。 | はい |
| 1.7②大学評価室による学生調査結果(入学前アンケート・1年生アンケート・卒業生アンケート)を組織的に利用していますか。 | はい |
| 【根拠資料】 | |
| 情報科学部第 439, 446, 450 回教授会議事録 | |

(2) 特色・課題

| | |
|--|---|
| 以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。 【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】 それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。 | |
| 【教育課程・教育内容】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証 ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等含む)への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。) ・幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の編成 ・初年次教育・高大接続への配慮 ・学生の国際性を涵養するための教育内容の提供 ・学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施 | |
| 特色 | 教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等含む)への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。) |
| 本学部のカリキュラムマップは、コース毎に、研究分野において必要となる科目を配置するとともに、推奨科目を明らかにしている。また、前提科目と後継科目の関係も明らかにし、学生にとって無理なく学修が進められるよう工夫がなされている。 | |
| 【教育方法】 ・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入(PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等) ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証(後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等) | |
| 特色 | 教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入(PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等) |
| 学部で重要となる初年次春学期に行われるプログラミング 1,2 では、クォーター性を導入するとともに、オースタムセッションでの再履修制度を導入し、つまづいた学生のリカバリーを早急に行える仕組みを導入している。また、2023 年度から、2 年秋学期に、卒論担当する全教員がオムニバス形式で行う CF/IS/MS 特論をオンデマンド形式で実施する。クォーター性で実施し、二コース以上の履修を推奨しているため、各学生は、多くの教員の講義に触れることができる。各学生は広い視野をもって、専門分野を選択することができる。 | |
| 【学習成果】 | |

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

| | |
|---|------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用。 ・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み ・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み | |
| 特色 | アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を把握する取り組み |
| <ul style="list-style-type: none"> ・入学時の全学生に対するプレースメントテストの結果で入学時学力を把握している。この結果は、クラス分け等に用いるだけでなく、該当年度新入生の傾向を測るものであるため、教授会でこれらのデータを用いた議論を活発に行っている。 ・情報科学卒業論文・情報科学特講の取り組みや成果は、受講する4年生全員が参加する発表会の場を通じて、当該授業を担当するすべての教員で合同で検証している。 | |
| その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。 | |
| 特色 | |
| 特になし | |
| 課題 | |
| 特になし | |

2 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

| | |
|--|----|
| 2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を記入してください。 | |
| <p>本学部が教育理念とする人材を育成するために重視する学生の能力および資質は、①基礎学力、②論理的思考力、③コミュニケーション力、④意欲、主体性、行動力、⑤志望や適性である。高等学校で学んだ基礎学力を身に付け、単なる暗記ではなく、知識を駆使して解を導く論理的思考力を備え、自らの考えを矛盾なく表現し、互いに議論することで切磋琢磨していきたく望む学生を求める。このため、これらの能力を備えた学生を多様な選抜制度により受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一般選抜(A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試(出願資格型)および大学入学共通テスト利用入試等) <p>学力を重視した受入を行う。「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に関して、数学、物理、英語等の試験により、基礎学力の定着度をはかり、論理的思考力とコミュニケーション力の基盤を備えているか確認する。学校推薦型選抜(指定校推薦入試、付属校推薦入試、スポーツ推薦入試等)</p> <p>自主性・人間性を重視した受入を行う。「知識・技能」に関して、調査書により、高等学校で学んだ学習の達成度を確認する。また、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・態度」に関して、志望書により、志望動機や適性をみるとともに論理的な文章作成能力を確認する。さらに、「意欲・態度」に関して、面接試験にてコミュニケーション力、意欲および適性を確認する。公募推薦入試、外国人留学生入試等</p> <p>学力、及び、自主性・人間性を重視した受入を行う。「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」に関して、筆記試験または外部試験にて、基礎学力と論理的思考力を測る。さらに、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・態度」に関して、面接試験等にてコミュニケーション力、意欲および志望や適性を確認する。</p> | |
| 2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。 | はい |
| 2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。 | はい |

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

【根拠資料】

法政大学の学生の受け入れ方針の各学部ホームページ

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/gakubu/

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

入学経路、コース別の学修達成度(GPA、科目別成績)の分析を行い、その結果に基づいて入試経路ごとの入学者の傾向を把握している。入試査定においては、この分析に基づいて、より適正のある学生をバランスよく受け入れられるよう努めている。

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。 はい

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

表1

| | |
|----------------------------------|--------------|
| 学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均 | 0.90～1.20 未満 |
| 学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率 | 0.90～1.20 未満 |

3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①学部の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。

情報専門科目教員資格についてのガイドラインに従い、適切な資質を持った専門科目教員を採用する。

専門科目教員を採用することでカリキュラムとの整合性の高い教員組織を編成する。

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①学部の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。 はい

3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。 はい

3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。

教員の採用にあたっては情報専門科目教員資格についてのガイドラインに従い、適切な資質を持った専門科目教員を採用している。また、教員募集前に、教授会懇談会を開き、

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

募集領域の研究・教育分野の適切性を議論している。この結果、カリキュラムと整合性が高く、バランスの保たれた教員組織となっている。外部に向け「理系学部研究室ガイド」に、研究領域と教員のマトリクスを示して公開している。

【根拠資料】

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・理系学部研究室ガイド

3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

| | |
|--|----|
| 3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。 | はい |
|--|----|

| | |
|---|----|
| 3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。 | はい |
|---|----|

【根拠資料】

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・英語教員資格についてのガイドライン
- ・自然科学教員資格についてのガイドライン
- ・情報科学部教授および准教授等資格内規
- ・情報科学部人事委員会細則
- ・情報科学部人事選考委員会細則
- ・情報科学部教員資格審査内規

3.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

| | |
|--------------------------------|----|
| 3.4①学部（学科）内のFD活動は組織的に行われていますか。 | はい |
|--------------------------------|----|

| | |
|---|--|
| 3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。 | |
|---|--|

- ・大学院講義である「オープンセミナー」は、教員の研究テーマについて交流する場として、全教員のプレゼンテーションが2年間で一巡する形式で実施している。
- ・全ての講義に対して、自由に授業参観を行うことができる。特に、複数教員が担当する同一講義の他クラスや講義の積み上げ方向の関連科目を中心に、講義方法や内容の共有を図っている。2022年度は、7科目以上(延べ16回以上)で、授業参観を行った。

| | |
|---|----|
| 3.4③学部（学科）内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。 | はい |
|---|----|

| | |
|--|--|
| 3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。 | |
|--|--|

文部科学省の科学研究費への応募を積極的に行い、研究者の科学研究費への応募率が、法政大学の学部の中で最高の数値になった。

大学院の春学期講義である「オープンセミナー」は、学部内の研究交流する場として、教員と大学院生が参加している。教員は、2年に1回、自分の研究をプレゼンテーションする必要がある。国際会議で論文発表をする大学院生は、会議発表前に、「オープンセミナー」の場で、研究発表を行っている。修士1年にとっては、必修科目であるため、全員が参加している。

4 学生支援

(1) 特色・課題

| |
|---|
| 以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。 |
|---|

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

| | |
|--|---------------------------------|
| 【学生支援】 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・学生の自主的な学習を促進するための支援 ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・外国人留学生の学修支援 ・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等） | |
| 特色 | 学生の自主的な学習を促進するための支援 |
| ガラス箱オフィスアワーセンター(GBC)を設置し、学生主体に学生の学習支援を行う仕組みを導入している。毎週、延べ100人の来訪者があり、年間では2000人を越える学生が来訪している。GBCの活動については、理系の他学部長に対して、学習支援と生活支援の両面で情報共有している。 | |
| その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。 | |
| 特色 | ・成績不振の学生の状況把握と指導 |
| 課題 | ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応 |

5 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

| | |
|--|----|
| 5.1①学部として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。 | はい |
| 【根拠資料】 情報科学部・情報科学研究科 研究倫理委員会要領 | |

III 2022年度中期目標・年度目標達成状況報告書

| | | |
|-------|--|---|
| 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 | |
| 中期目標 | 2022年度のカリキュラム改革で制定したカリキュラムに従い教育を実施し、教育過程・教育内容の検証と更なる改良を行う。 | |
| 年度目標 | 初年次教育のプログラミング入門 1,2 のクォータ化とオースタムセッションを利用した再履修制度と、秋学期に実施するプログラミング科目の共通化について、その実効性を検証する。 | |
| 達成指標 | プログラミング入門科目群の教育課程変更に伴う検証を行い、教授会で報告する。 | |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | プログラミング入門のクォータ化について教授会報告を受けた。夏季休暇に実施した補習クラスも含めて、つまづく学生の早期発見と、その後のリカバリに対して、クォータ化が有効に働いたことを示した。 |
| | 改善策 | 前年度に不合格であった学生について、複数年にわたる経過観察を行う。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | プログラミング入門科目群のクォータ化について、科目を担当した教員により検証結果の報告が実際に詳細に行われた他、随時制度説明も行われたことは、高く評価できる。 |

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

| | | |
|-------|----------------|--|
| | 改善のための提言 | 非クォーター科目との共存だけでも複雑な制度上の問題解決が行われたと推察される。導入されたクォーター制度が引き続き有効活用されることを期待する。 |
| | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| | 中期目標 | 座学・実習・演習が中心となる情報科学分野のディシプリン型教育において、アクティブラーニング等の新たな教育方法の有効性についての検討を進める。 |
| | 年度目標 | コロナ後を見据えた対面授業とオンライン授業を組み合わせた教育方法について試行する。 |
| | 達成指標 | 対面とオンラインの授業方法に関して教授会で報告する。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | 1年を通じて対面授業が可能になり、春セメスタは複数教室での履修体制を整え、秋セメスタは教室定員を以前と同数に戻して授業を実施した。プログラミングなど、一部の授業はオンラインを効果的に利用しており、状況に合わせて、対面とオンラインのハイブリッドな授業形態を確立した。 |
| | 改善策 | 2023年度は非常勤講師の授業も対面中心で実施する。引き続き、学生の履修動向などに注目する必要がある。また、CF/IS/MS特講をオンデマンド形態で実施する予定であり、次年度末に成果を評価する。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 社会的距離と教育効果の両立という困難な課題に、限られた教室数の中での予備教室の確保やTAの配置の工夫、出席管理システム記録の再解釈等で対処するなど、前年度に引き続き新たな取り組みが行われ、教授会で報告されたことは評価できる。 |
| | 改善のための提言 | 教室割り当ての柔軟な変更出席管理システムが追従できていない部分の対応のための負荷を軽減するため、出席データの読み出しインタフェースの改善など、システムの次期調達時の仕様に反映できると良いのではないか。 |
| | 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |
| | 中期目標 | 多様な入学経路やコース化した教育課程において、情報科学や情報技術についての学修達成度の把握により適切な指標を検討し、学修支援への活用を進める。 |
| | 年度目標 | 入学経路、コース別の学修達成度(GPA、科目別成績)の分析を行う。 |
| | 達成指標 | 学習達成度の分析を行い、教授会で報告する。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | 留級者と退学者の分析を行い、教授会に報告した。入試経路別の分析も行い、留学生や英語外部入試の学生に留級や退学が多いことを示した。公募推薦の学生が、順調に学修を進めていることなど、入試経路による差異が大きく、今後の入試方式の検討に活用する。 |
| | 改善策 | 継続した分析が必要である。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 留級や退学等学修状況の入学経路別の推移が教授会で実際に詳細に報告されただけでなく、メーリングリストやオンラインコミュニケーションツールでも随時意見交換が行われ、今後の方針についての議論にも繋がったことは評価できる。 |
| | 改善のた | 今年度と同様の分析が継続されることにより、入試方式の検討に活用され |

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

| | | |
|----------|--|---|
| | めの提言 | ることも重要である。 |
| | 評価基準 | 学生の受け入れ |
| | 中期目標 | 社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路の多様化を進める。入試経路拡大の際には、入学経路毎の適切な定員バランスに配慮する。 |
| | 年度目標 | 入学経路の検証を行い、附属校との高大連携を図る。 |
| | 達成指標 | 附属校との高大連携協議の実施。 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | S |
| | 理由 | 附属校推薦委員会委員の立場も活用し、附属校推薦について、積極的な意見交換と、制度改革の提案を行った。そして、附属校推薦者全員に対し、入学前面談を実施し、面談結果を附属校と共有した。また、2021年度にコロナの影響で実施できなかった法政国際高校での数学補修クラスの支援を実現した。 入学者の高校ランクを調査し、公募推薦への応募者の高校ランクと乖離していることを確認し、来年度以降の公募推薦で、評定平均の制限をはずし、上位校からの受験をしやすい制度に改革した。 |
| | 改善策 | 引き続き、附属校との連携を深め、学習内容に踏み込んだ高大連携の実現を目指した活動を継続する。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 附属校推薦者面談とその結果の附属校との共有、数学補修クラスの支援など、高大の連携に繋がる取り組みは高く評価できる。高校ランクの分析と公募推薦入試の検証を通じた書類選考制度更新は、附属校以外の入学経路に対する中期目標全体に向けた取り組みとしても高く評価できる。 |
| | 改善のための提言 | 附属校推薦者面談結果の共有が面談の場でリアルタイムに行えたため比較的軽量であったが、今後の取組みも同様の効率的な実装が継続されることを期待する。 |
| | 評価基準 | 教員・教員組織 |
| | 中期目標 | 学部の理念・目的に基づいた教員組織の編成を行う。同時に、教育研究体制を強化するための、FDや教員間の協働を進める。 |
| | 年度目標 | 新任教員2名を迎え、教員組織の中で適切な役割を担わせることで、FDに努める。 |
| | 達成指標 | 新任教員への適切な役割の付与 |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | 2名の新任教員に対し、学生委員会委員や情報センター運営委員、あるいは、前職を生かしたリエゾンオフィス委員などを経験していただいた。 |
| | 改善策 | 2023年度は、インターンシップ担当教員を担務させるなど、学部業務への参加意識を醸成していく。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 新任教員に対し、FDに資する委員を実際に経験して頂いたことは高く評価できる。 |
| 改善のための提言 | 教育研究に関する知見が随時共有できる環境が引き続き維持されることを期待する。 | |
| | 評価基準 | 学生支援 |
| | 中期目標 | 大学における学修に困難を抱えている学生について、組織的な支援の体制を構築する。 |

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

| | | |
|--|--|--|
| 年度目標 | 学生の進学・就職支援体制を強化する。 | |
| 達成指標 | 進学・就職支援に関する学生へのガイダンス等の実施回数 | |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | 3年生向けのインターンシップ支援として、ガイダンス2回、ES対策2回を実施し、4年生向けの就活支援として、ガイダンス4回、ES講座4回、会社説明会9回、リスタート講座1回を実施した。 特筆すべき点として、今年度は就活が遅れていた学生向けにリスタート講座を実施し、就活支援を強化したことがあげられる。 |
| | 改善策 | 就活が前倒し傾向であり、ガイダンス実施時期を考慮する必要がある。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 就活において自走が困難な学生には特に、学部としてのガイダンスやES講座、リスタート講座等が、より広範な就活手段を提供できたと考えられ、その取り組みは高く評価できる。 |
| | 改善のための提言 | ガイダンス実施時期の調整等に資するためにも、引き続き支援活動実績の次年度担当者への共有が重要である。 |
| 評価基準 | 社会連携・社会貢献 | |
| 中期目標 | 情報科学分野における基礎技術や最新技術の情報を社会に向けてわかりやすく提供していく。そして、外部機関との共同研究等を通して、研究活動の交流をはかる。 | |
| 年度目標 | 公的資金獲得を推進する。 | |
| 達成指標 | 公的研究資金への新規採用数 | |
| 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | 自己評価 | A |
| | 理由 | 2022年度の基盤研究(C)に、新規で3件の研究が採用された。2023年度の科研費申請は12件あり、科研費申請可能な教員数を母数とすると66.7%の申請率になり、全学でトップである。 |
| | 改善策 | 引き続き、外部資金への応募を強化する。 |
| | 質保証委員会による点検・評価 | |
| | 所見 | 公的研究資金の新規採用のためには、申請率も重要であり、全学トップの申請率は高く評価できる。 |
| 改善のための提言 | 外部資金の公募状況や採択経験の共有が随時行われており、そのような取り組みが継続されることを期待する。 | |
| <p>【重点目標】 2022年度のカリキュラム改革で制定したカリキュラムに従った教育を開始し、初年次教育の検証を行う。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 初年次教育について、春学期のプログラミング入門1,2のクォータ化とオータムセッションを利用した再履修制度について、履修者数、成績などを分析する。秋学期には、新カリキュラムで統一化したプログラミング入門3について、履修者動向、成績などを分析する。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 2022年度からのカリキュラム改革により、1年次のプログラミング教育が統一され、受講しやすい形になった。また、1年春セメスタのプログラミング入門をクォータ化し、初期のつまづきを明らかにするとともに、夏季に補修クラスを集中講義として実施することで、フォローアップ体制を作り、不合格者を減らすことができた。新カリキュラムでは、文部科学省の進める数理・データサイエンス・AIの応用基礎レベルを必修授業の受講だ</p> | | |

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

けで履修できる点も特徴であり、情報科学部の特長を生かしたカリキュラムとしてスタートすることができた。
 付属校推薦に対して、推薦者全員の入学前面談を実施した。高校数学についての学習状況が芳しくない学生もおり、付属校と情報共有し、対応策を協議するきっかけとした。

IV 2023 年度中期目標・年度目標

| | |
|------|---|
| 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 中期目標 | 2022 年度のカリキュラム改革で制定したカリキュラムに従い教育を実施し、教育過程・教育内容の検証と更なる改良を行う。 |
| 年度目標 | 2022 年度カリキュラムにおける、プログラミング科目群の構成にかかわる改善点の検証を行う。 |
| 達成指標 | プログラミング関連科目の履修状況（成績等）の学部教授会での共有 |
| 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 中期目標 | 対面授業に加え、オンライン・オンデマンド型の授業を組み合わせ、効果的な教育方法を確立する。特に、将来的なオンデマンド型授業の活用方法について検討する。 |
| 年度目標 | 対面授業とオンライン・オンデマンド型授業を組み合わせ教育方法について試行する。 |
| 達成指標 | オンデマンド形態で実施する CF/IS/MS 特論における受講状況（成績、レポート等） |
| 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |
| 中期目標 | 多様な入学経路やコース化した教育課程において、情報科学や情報技術についての学修達成度の把握により適切な指標を検討し、学修支援への活用を進める。 |
| 年度目標 | 昨年度に引き続き、入学経路、コース別の学修達成度（GPA、科目別成績）の分析を行う。 |
| 達成指標 | 学習達成度の分析を行い、教授会で報告する。 |
| 評価基準 | 学生の受け入れ |
| 中期目標 | 社会における大学での情報科学教育の位置づけの動向を注視しつつ入学経路のあり方を検討する。特に、2024 年度入試にて実施する公募推薦入試制度改革の効果分析、付属校からの入学経路に対する高大連携の強化を検討する。 |
| 年度目標 | 2024 年度入試から推薦基準を変更する公募推薦入試の実施体制を確立する。 2023 年度入試から実施した付属校からの進学志望者に対する面談を実施する。 |
| 達成指標 | 公募推薦入試の実施結果についての教授会報告 付属校からの進学志望者に対する面談結果の教授会報告 |
| 評価基準 | 教員・教員組織 |
| 中期目標 | 学部の理念・目的に基づき、長期的に持続可能な教員組織の編成を行う。同時に、教育研究体制を強化するための、FD や教員間の協働を進める。 |
| 年度目標 | 2024 年度からの新任教員の人事を行う。 2023 年度の新任教員 1 名を迎え、教員組織の中で適切な役割を担わせることで、FD に努める。 |
| 達成指標 | 適切な新任教員の人事の実施 新任教員への適切な役割の付与 |
| 評価基準 | 学生支援 |

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

| | |
|---|--|
| 中期目標 | 大学における学修に困難を抱えている学生について、組織的な支援の体制を構築する。 |
| 年度目標 | 進学・就職支援に関する学生への働きかけの方法や時期の変更を検討 GBC 相談員・学生相談室・事務・教員間での連携 |
| 達成指標 | 就職ガイダンス、大学院進学ガイダンス等の適切なタイミングでの実施 GBC 相談員の配置、各スタッフ間での協議の実施 |
| 評価基準 | 社会連携・社会貢献 |
| 中期目標 | 情報科学分野における基礎技術や最新技術の情報を社会に向けてわかりやすい形で提供する。そして、外部機関との共同研究等を通して、研究活動の交流をはかる。 |
| 年度目標 | 広報誌への情報科学関連の記事の掲載 公的資金獲得を推進する。 |
| 達成指標 | 広報誌への記事の掲載数 公的研究資金への新規採用数 |
| <p>【重点目標】 2022 年度のカリキュラム改革で制定したカリキュラムに従い教育を実施し、教育過程・教育内容の検証と更なる改良を行う。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 2022 年度カリキュラムにおける、プログラミング科目群の構成にかかわる改善点の検証を行う。</p> | |

【大学評価総評】

| |
|--|
| <p>情報科学部では、2022 年度に制定した新カリキュラムに従い教育を実施している。カリキュラムを基盤部分と最先端部分に分けて編成しており、これは急速な進歩を遂げつつある情報科学に適した対応策であるといえる。また、初年次のプログラミング授業においてクォーター制を導入するとともに、オースタムセッションでの再履修制度を導入している点が独創的な取り組みであり、つまづいた学生の早期発見とその後のリカバリーを行える仕組みとして高く評価できる。導入した制度の効果を引き続き検証していただき、今後これらの取り組みに関する情報が全学的に共有・活用されることを期待する。</p> <p>教員組織に関しては、全ての講義に対して自由に参観できる仕組みを整えており、授業参観の回数も良好である。また、文部科学省の科学研究費への応募を積極的に行っており、応募率が法政大学の学部の中で最高値であったことは高く評価される。学生支援に関しては GBC の運用がユニークな取り組みであり、他学部への参考になることから是非今後も活用と効果の検証を継続していただきたい。</p> <p>なお、昨年度の大学評価において中期目標に関する指摘が挙げられていたが、今年度は広報誌への記事の掲載や、対面とオンライン・オンデマンド型を組み合わせた教育方法の試行、入試経路の再検討などの点において中期目標に修正が加えられており、指摘事項に対して適切に対応されている。</p> |
|--|

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

| | |
|---|--------------------------------|
| 2023 年度自己点検・評価シートに記載された Ⅱ 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を確認 | 法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた |
| < 法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目 > | |

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。